

令和6年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、北海道地方では低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。一方、東北地方から沖縄・奄美にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、東北南部では1日頃に、東北北部では2日頃に梅雨明けした。このため、旬降水量は北・東・西日本日本海側、北・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。また、旬間日照時間は西日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった一方、北日本日本海側で少なかった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったことに加え、晴れて強い日射の影響を受けたことにより、9日は三重県の桑名で日最高気温40.4℃を観測するなど、各地で記録的な高温となった。このため、旬平均気温は東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北日本で高かった。特に、西日本では旬平均気温平年差が+2.0℃となり、1946年の統計開始以降、8月上旬として1位の高温となった。

中旬は、西日本や東日本太平洋側を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、沖縄・奄美では期間の後半を中心に湿った空気や台風第9号などの影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。12日は台風第5号が岩手県に上陸し日本海へ進み、北日本太平洋側を中心に大雨や荒れた天気となった所があったほか、16日は台風第7号が接近した関東地方で大雨や荒れた天気となった所があった。また、西日本太平洋側を中心に期間の終わりに湿った空気が流れ込んだため、大雨となった所があった。これらのことから、旬降水量は、北・西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった一方、北・東・西日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は、東・西日本太平洋側と西日本日本海側で多かった一方、沖縄・奄美で少なかった。旬平均気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすかったことや晴れて強い日射の影響で気温が上昇したこともあり、東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美で高かった。岐阜県的美濃では16日に40.0℃を記録するなど、東・西日本を中心に猛暑日となった所があった。

下旬は、北日本では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。東・西日本では、期間の前半は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬降水量は東日本日本海側で少なかったが、期間の後半は台風第10号が29日に鹿児島県に上陸し、31日にかけて西日本から東海道沖に進んだため、大荒れとなった所があった。また、台風周辺や太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の影響で、西日本を中心に線状降水帯が発生し、各地で記録的な大雨となった。静岡県網代では72時間降水量が1976年の統計開始以降で最も多い608.0mmを記録した。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第10号に加えて熱帯低気圧が接近したため、曇りや雨の日があった。これらのことから、旬降水量は、東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側と北日本太平洋側で多かった。東日本太平洋側の旬降水量は平年比422%で、1946年の統計開始以降、8月下旬として1位の多雨となった。また、旬間日照時間は、北・東日本太平洋側で少なかった。旬平均気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったことや西日本を中心に太平洋高気圧に覆われて強い日射で猛暑日になった所が多かったため、北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7日目平均)は、例年値(注)よりも2ポイント高

い68%となった。地方別の適中率では、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄で例年値を上回り、北海道で例年値を下回った。最高気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.1℃小さい2.2℃で、北海道、東北、関東甲信で例年値よりも小さかった。また、最低気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.3℃で、北海道、東北、関東甲信、北陸を中心に例年値よりも小さかった。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期ですので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく、気温にも注意してください。また、平年では台風の影響が残る時期ですので、週間天気予報等の最新情報をご確認ください。